

東日本大震災ウィーク in 奈良女子大学文学部

対 象 科 目 一 覧

5月16日にお知らせしました「東日本大震災ウィーク in 奈良女子大学文学部」の対象科目は、次の18科目に決定しました。学内の方には全ての授業科目を公開しますので、是非ご参加ください。

学外者公開可とした科目については、学外者の聴講を歓迎します。聴講を希望される方は、直接各講義室にお越し頂き、担当教員に聴講希望の旨をお知らせください（事前申し込みは不要です）。

本件問い合わせ先：学務課文学部係

Tel：0742-20-3699 Fax：0742-20-3234

E mail： bun@jimu.nara-wu.ac.jp

○担当者：柳澤有吾 ○学外者非公開

○日時：6月6日(月) 9時から(1・2時限)

○場所：N101 教室

○科目名：現代の倫理

○内容：震災と「共感の遠近法」

身近な出来事に注目し、心動かされ、そのために行動するのは当然のように思われるが、遠くのことはどうでもよいというわけでもない。災害にかかわる共感や罪悪感にみられる「遠近法」を共同体主義/普遍主義、愛国主義/世界市民主義といった対立軸と関連させながら考察する。

○担当者：高田将志 ○学外者公開 可 (ただし、教室の関係で、1～2名のみ聴講可能)

○日時：6月6日(月) 13時から(5・6時限)

○場所：研究棟(文学系南棟) 1階S 122号室

○科目名：地形環境学特殊研究

○内容：どのような地理的条件の場所で地震や津波災害が発生するのか、そして、それはどのくらいのタイムスケールで捉えるべき現象なのかについて、今回の東日本大震災を一つの例として解説するとともに、奈良や近畿圏を中心として、我々は今後、どのような自然災害に対する備えを考えておくべきかについて、研究の現状と今後の課題について紹介する。

○担当者：柳澤有吾 ○学外者非公開

○日時：6月6日(月) 13時から(5・6時限)

○場所：F501 教室

○科目名：倫理学特殊研究

○内容：カントの「地震論」

若きカントが地震論を著していたことはあまり知られていないが、災害から神意を読み取ろうとする議論とは一線を画したその論述は、自然と人間の関係に対するカントの考えを窺わせるものとして興味深い。晩年の『判断力批判』も参照しながらその意味を考える。

○担当者：栗岡幹英 ○学外者非公開

○日時：6月7日（火）10時40分から（3・4時限）

○場所：N339 教室（シラバスから変更あり）

○科目名：基礎演習 B

○内容：「震災をめぐる新聞記事研究」

東日本大震災が日本社会や世界に投げかけた問題を論ずる新聞記事を読み、この震災について私たちがなにを考えるべきかを討議する。

○担当者：小路田 泰直 ○学外者公開 可

○日時：6月7日（火）13時から（5・6時限）

○場所：N101 教室

○科目名：歴史学

○内容：戦後日本における原子力の歴史

○担当者：三野博司 ○学外者公開 可

○日時：6月7日（火）13時から（5・6時限）

○場所：S 棟 2 階 LL2 教室

○科目名：フランス言語文化史概論 I

○内容：ヴォルテール「リスボンの災厄についての詩」と「カンディード」

1755年11月1日、死者3万とも6万とも言われるリスボン大地震は、ヨーロッパ中に衝撃を与えた。これを機に書かれたヴォルテールの2つの作品を解説し、それに対するルソーの批判も紹介し、啓蒙期における両者の思想の相違について考察する。

○担当者：鈴木 康史 ○学外者公開 可

○日時：6月7日（火）13時から（5・6時限）

○場所：E107 教室

○科目名：身体教育学特殊研究

○内容：「震災と娯楽① 関東大震災と阪神淡路大震災をつなぐうた ～添田唾然坊、鳥取春陽とソウル・フラワー・モノノケ・サミット」

震災の後にうたわれた歌、歌われなかった歌、その社会史的な意味を探ってみます

が、とりあえずはこんなことがあったのだという事例紹介を中心に。

○担当者：栗岡幹英 ○学外者非公開

○日時：6月7日（火）14時40分から（7・8時限）

○場所：N339 教室

○科目名：社会情報学専門講読A

○内容：「震災を海外メディアはどう報じたか」

英国の新聞が東日本大震災について報じた英文記事を読み、日英メディアの報道姿勢や視点の異同を考える。

○担当者：鈴木 康史 ○学外者公開 可

○日時：6月7日（火）14時40分から（7・8時限）

○場所：E109 教室

○科目名：子どもメディア社会論特殊研究

○内容：「震災と娯楽② 関東大震災と民衆娯楽 ～民衆娯楽研究者権田保之助の軌跡を中心に」

大正から昭和にかけて、民衆娯楽から統制的娯楽へと思想を転回させていった民衆娯楽研究者の草分けである権田の、その転回の始まりとして関東大震災。震災について彼が何を語ったかを紹介します。

○担当者：天ヶ瀬正博 ○学外者公開 可

○日時：6月7日（火）14時40分から（7・8時限）

○場所：N202 教室

○科目名：心の研究史概論

○内容：「震災から私たちが共に考える心と社会～震災を災害で終わらせないために」

これまでの授業では、古代ギリシアにおいて倫理構築し正しい政治を行うために心理学が行われるようになったことを論じてきました。この回では、授業の前倒しになりますが、西洋近代社会もまた同様に社会構想において心理学を必要としたことを論じます。

すなわち、18世紀、『国富論』によって近代社会の一つの枠組みを提供したアダム・スミスは、その社会構想の根拠を『道徳感情論』におきました。その中で、アダム・スミスは、同胞が見舞われた災厄に同感することが人間のもっとも自然な感情の一つであり、それを道徳の一つの基礎としました。『道徳感情論』が発表されたのはリスボン大地震の4年後のことです。

震災ウィークの講義では、リスボン大地震が西洋社会に与えた衝撃と東日本大震災における私たち一人ひとりの思いや行動を追いながら、アダム・スミスに倣って、私たち一人ひとりの思いを社会実現につなげることの可能性と限界について対話することを予定しています。

○担当者：出田・宮路 ○学外者非公開

○日時：6月7日（火）16時20分から（9・10時限）

○場所：A201 教室

○科目名：地球温暖化とその対策をめぐって ―先進国と途上国の立場から考える―

○内容：直接震災をテーマとするものではありませんが、今回の津波による福島第1 原発の状況をきっかけに原子力発電所の安全の問題とともに、地球温暖化への対応策の一つであった原子力利用に困難な問題が生じ、地球温暖化への取組が改めてクローズアップされる状況でもあります。そこで、この問題をめぐる途上国と先進国という立場の違いを踏まえ、望ましい地球温暖化問題解決のあり方を探るために、受講者が途上国と先進国の立場に分かれて、討論を行います。

○担当者：相馬秀廣 ○学外者非公開

○日時：6月9日(木) 9時から（1・2時限）

○場所：S122 教室

○科目名：自然地理学概論 B

○内容：反復する大地震がつくった地形・土地条件、そして減災へ向けて

今回の東日本大震災では、沿岸部を中心に大きな被害をもたらされた。一方、日本ではこれまで、南海地震、東南海地震をはじめとして、大地震が繰り返し発生し、その結果、沿岸部を中心に新たな地形ができ、新たな土地条件が形成されてきた。講義では、東日本大震災による事例を含めてそれらを紹介する。併せて、それらの土地条件の下、減災にはどのような取り組み、考え方が必要かなどについて解説する。

○担当者：柳澤有吾 ○学外者非公開

○日時：6月9日(木) 10時40分から（3・4時限）

○場所：E109 教室

○科目名：社会

○内容：NIMBY 問題と原発

施設の社会的必要性は認めても近所にできるのはお断り(not-in-my-backyard=NIMBY)という態度は単なる「住民エゴ」にすぎないのか。地域の廃棄物処理場から原子力関連施設、米軍基地まで含む「迷惑施設」の問題を、民主主義のひとつの課題として検討する。

○担当者：舘野和己 ○学外者非公開

○日時：6月6日（月）10時40分から（3・4時限）

○場所：研究棟（文学系南棟）3階S 328 号室

○科目名：日本古代史演習 I

○内容：「日本古代の震災関係史料を読む」

- 担当者：栗岡幹英 ○学外者非公開
- 日時：6月9日（木）13時から（5・6時限）
- 場所：N339教室（シラバスから変更あり）
- 科目名：社会情報学演習Ⅰ
- 内容：「震災の語りを読む」

阪神淡路大震災をめぐる語りを収録した書籍の一部を読み、震災を語り継ぐことの意味を考える。

- 担当者：甲斐健人 ○学外者公開 可
- 日時：6月9日（木）14時40分から（7・8時限）
- 場所：S124教室
- 科目名：体育社会学特殊研究
- 内容：「メガ・スポーツイベントと震災」

オリンピックやワールドカップなどメガ・スポーツイベントの開催は地域社会にさまざまな影響を及ぼしている。一方で、「ポスト開発」の時代に、なぜスポーツイベントは巨大開発を「正当化」する力をもちうるのかが問われてもいる。ここでは、福島県につくられた「ヴィレッジ」と震災との関係をとおして、「肥大化」したスポーツに対する私達の付き合い方について考えてみたい。

- 担当者：宮路淳子 ○学外者公開 可
- 日時：6月10日（金）9時から（1・2時限）
- 場所：S128教室
- 科目名：考古学概論
- 内容：「地震と考古学」

日本列島に残る過去の地震の痕跡が、考古学的にどのように確かめられているかを発掘現場の情報をもとに解説する。古代より人間がいかにして地震と向き合ってきたかを考える。

- 担当者：寺岡伸悟 ○学外者非公開
- 日時：6月10日（金）13時から（5・6時限）
- 場所：N302教室（シラバスから変更あり）
- 科目名：地域メディア論特殊研究
- 内容：「災害と地域メディア—被災地のコミュニティFMを中心に—（仮）」

ゲスト講師：加藤晴明氏（中京大学現代社会学部教授）

被災地において貴重な情報伝達やネットワークの手段として、コミュニティFMがいくつも立ち上がっている。5月初旬・宮城県を中心にこうしたコミュニティFMの現地調査を実施された加藤教授（メディア研究）をお迎えし、その活動の現状を学びます。